

備前市事務事業評価シート

(平成21年度事業)

事業の概要			
事業開始年度		平成17年度	
総合計画	大項目	03	地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	01	未来を支える人材を育むまちづくり
	小項目	02	小・中学校
事務事業名		14	学校図書館運営事業
		根拠法令・例規等	
		問担当課(室)	学校教育課
		合職・氏名	学事係長・磯本宏幸
		先電話	64-1840
		このシート作成に要した時間	1.5 時間

事業の目的	
対象(誰・何に対して)	備前市立小・中学校の児童生徒及び教職員
目的(何のために)	各小中学校に学校図書館司書を配置し、学校図書館の環境整備を図り、児童生徒の読書意欲の向上と読書習慣の育成を図る。
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	児童生徒の読書習慣を形成し、読書に親しむ児童生徒を育成することで、豊かな心の醸成を図る。

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業の実績			
目的を達成するために実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	小学校図書館司書配置事業	計7名の学校図書館司書を雇用し、小・中学校18校の学校図書館の環境整備や読み聞かせ等の読書活動につながる取組を行うことで、児童生徒の読書意欲の向上と読書習慣の定着を図る。	
	中学校図書館司書配置事業		

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	
決算額	直接事業費		18,354	19,171	19,437	
	必要人員(人件費)	千円	0.02人	216	0.02人	100
	事業費		18,570	19,271	19,457	
	国県支出金					
	受益者負担					
	繰入金	千円				
	その他()					
一般財源		18,570	19,271	19,457		
受益者負担比率	%	0.0%	0.0%	0.0%		
結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	
結果指標	図書館司書の総雇用時数	説明	小・中学校に配置した図書館司書の総雇用時数			
	結果指標量	時間	13,216	13,216	13,216	
	対前年比	%	-	100.0%	100.0%	
	活動コスト	円	18,570,000	19,271,000	19,457,000	
単位当たりコスト		1,405	1,458	1,472		

事業の成果					
成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
学校数あたりの学校図書館司書雇用人数	目標値(A)	0.5	0.5	0.5	0.5
	実績値(B)	0.37	0.39	0.39	到達目標値
学校図書館司書雇用人数/学校数	達成率(B/A)	74.00%	78.00%	78.00%	78.00%
成果指標設定の考え方・式や説明					
現在、2校に1名の配置と3校に1名の配置が混在しているが、他市等の状況から2校に1名を目標とし、より充実した指導が可能になる。					

事務事業の評価		妥当性評価 <A-E>
妥当性の評価	市の関与の妥当性	B
	市民ニーズ	
効率性の評価	コスト	C
	目的達成度	
有効性の評価	市民参画度	B

留意事項の目的がその効果の値評価指標であること成果指標

進行年度(H22年度)の改革改善内容						
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・廃止
説明	児童生徒の読書習慣の形成と読書活動の推進のためには、欠かせない事業である。学校現場からのニーズも高く、次第に充実した取組が見られるようになってきている。現事業を継続して実施していくとともに、2名増員の方策を探っていきたい。					

総合評価		評価区分 <A-E>
児童・生徒の読書習慣を培い、豊かな心を醸成していくために大きな役割を果たしている事業であり、今後更なる充実が求められる事業であり、学校からその効果の大きさについて高い評価を得ている事業である。事業費の大半は司書の賃金と共済費であり、効率性を追求することは困難である。		B

平成23年度の方向性及び取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・廃止
取組目標	更なる充実を図りたい事業ではあるが、他事業との優先性を考慮したとき、現状を維持していくことが妥当であると評価する。財政状況の好転が見られたときには、是非拡充していききたい事業である。国や県の事業等の活用による増員の方策を探っていきたい。					